

23 異文化理解

Let's give it a try!	解答例		
<p>1. 小学校外国語活動と外国語科における異文化理解の目標の違いについてまとめなさい。</p>	<p>特徴的な違い</p>	<p>外国語活動</p> <p>様々な言語に触れたり、日常生活に密着した外国の生活文化などに幅広く触れたりすることにより、<u>日本語や日本の文化を含めた幅広い言語や文化</u>に対する理解を深めることを目指している。</p>	<p>外国語科</p> <p>中学年における理解の深まりをもとに、<u>対象である外国語（英語）やその背景にある文化</u>の理解を図ることとしている。</p>
<p>2. 小学校3年生～6年生の教材から1単元を選び、異文化理解を深める指導計画を作成しなさい。</p>	<p>例) 『We Can 1』 Unit 6 “I want to go to Italy”</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童に行ってみたい国、友達に紹介したい・オススメしたい国を調べさせ、それぞれの国の特徴として（「食生活、遊び、地域の行事」や「日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然などに関するもの」）について、絵や写真を用いて英語で紹介する活動などが考えられる。</li> </ul>		
<p>3. 国際理解教育と異文化理解教育は同様の意味で用いられることも多い。一方で、両者が異なるものであるとの考えもある。国際理解教育と異文化理解教育の共通点・相違点を述べよ。</p>	<p>共通点) ア) イ) ウ) に示されるような教育のねらいは共通である。(ア) 多様な考え方に対する理解を深める、(イ) 我が国の文化や、外国語の背景にある文化に対する関心・理解を深める (ウ) 広い視野から国際社会と向き合う態度を養う (学習指導要領 (H. 29 年度版) 「教材選定の観点」)</p> <p>相違点) 泉 (2013)では、ユネスコが「国際理解教育」ではなく「国際教育」という概念を提示したことに触れ、21世紀の国際教育の理念は「国と国が相互に理解し合うというよりも、国を越えて地球規模で」様々な課題に取組み理解を深める方向に変わってきたと述べている。つまり「国際理解教育」では、異なる国についての理解という意味合いがあるのに対し、国の枠を越えた相互理解を目指す教育という意味であえて「国際理解教</p>		

育」を用いないこともあることがわかる。また、同じ国内においても多様な文化を含むことが考えられ「国際理解教育」ではなく「異文化理解教育」が用いられる場合がある。

参考文献：泉（2013）「関連分野から見る外国語活動の意義と方向性」『小学校英語教育法入門』p.23. 研究社